

糖尿病・代謝内科プログラム

一般目標(オリエンテーション)

福岡赤十字病院の糖尿病代謝内分泌内科は日本糖尿病学会の認定教育施設であり、主として糖尿病、糖尿病合併症、内分泌疾患、脂質異常症、高尿酸血症など代謝に関連した疾患を担当しております。1日80名を超える患者様が受診し、多くの糖尿病代謝内分泌的疾患にも対応しております。また、地域支援病院として、多くの開業医の皆様と協力しており、糖尿病症例はいうまでもなく、多くの内分泌疾患の経験を積むことができます。当科の研修を通じて、糖尿病代謝内分泌疾患の基本的な診療手技・知識を修得してください。1年目では、糖尿病教育入院における講義・カンファレンス・インフォームドコンセントについて見学及び参加します。意欲的に取り組む姿勢が見られる場合には、上級医の指導の下で、担当患者の血糖コントロールについての具体的指示を出したり、上級医の外来診療の場において見学及び参加することも可能です。2年目では上級医の指導の下で、他科入院患者の血糖コントロールについて具体的指示を出すことが可能です。

行動目標

B-1医学・医療における倫理性	人間の尊厳を守り、患者のプライバシーに配慮した診療を行う。
B-2医学知識と問題対応能力	検査特性(感度・特異度・尤度比)を意識した診療を行う。
B-3診療技能と患者ケア	医療面接・身体診察を行い、検査データを踏まえ、プロブレムリストを挙げ、それぞれのプロブレムに対し、診療計画を立案し実行する。
B-4コミュニケーション能力	礼節をわきまえ、丁寧かつ分かりやすい言葉で患者や家族に接し、相手の心理・社会的背景も踏まえ、患者・家族のニーズを把握する。
B-5チーム医療の実践	看護師、栄養士、検査技師、薬剤師などのコメディカルと情報を共有しチーム医療を展開する。 患者の社会背景も十分に考慮したうえで治療方針を考え、カンファレンスなどでディスカッションする。
B-6医療の質と安全管理	上級医に報告・連絡・相談を必ず行い、一人で判断をしないことが重要であり、事が起きた場合にもまずは上級医に相談し、医療安全室へ対応を相談する。
B-7社会における医療の実践	DPCなども考慮して本当に必要な検査のみを適切なタイミングで選択する。 医療費の患者負担にも考慮しつつ、適切な治療薬を選択する。
B-8科学的探究	自分の臨床的疑問点をリサーチクエストに変換し、適切な研究デザインを選択できる。
B-9生涯に渡って共に学ぶ姿勢	積極的に上級医に質問し、また自ら教科書や文献を調べることで医学知識の吸収に努める。 得られた知識を同僚や医師以外の医療職とお互いに共有し、学びあう。

研修の方略(LS)

週間スケジュール	月	火	水	木	金
8:30～12:00	病棟回診 外来研修	病棟回診 外来研修	糖尿病教室	病棟回診 負荷検査など	病棟回診 外来研修
13:00～15:00	糖尿病教室	糖尿病教室	病棟回診	糖尿病教室	糖尿病教室
15:00～16:30	病棟回診	部長回診	病棟回診	病棟回診	教育入院患者 カンファレンス
16:30～17:00	症例検討会	内分泌カンファ	高血圧カンファ	膠原病カンファ	病棟回診

病棟業務

- 1)糖尿病代謝内分泌内科の入院患者の副主治医として、上級医とともに診療を行う
- 2)入院当日の午後3時(時間厳守)までには指示出しする
- 3)受け持ち患者の要約をカルテに的確に記載し、問題点(POMRIに準じて)を整理する
- 4)診療に当たってはProblem Listをしっかりと立てる
- 5)診断がついていない場合には、鑑別診断のリストを作成する
- 6)検査の組み立てに当たっては検査特性(感度・特異度)を考慮に入れる
- 7)病歴聴取に当たっては、Review of systemsを用いる
- 8)身体診察については、鑑別診断、問診、検査結果を考慮して診察をする
- 9)問題点・疑問点を上級医とともに解決する
- 10)診療に当たっての疑問を様々な教科書を活用し、解決を目指す
- 11)一般専門外来や様々な検査に積極的に参加し、研鑽を積む
- 12)救急外来に必要に応じ(夜間でも)出向き、診療する
- 13)ローテーション終了後は速やかに研修記録をまとめ、入力・記入する
- 14)毎週火曜日午後3時からの部長回診では、受け持ち患者の病状を適切に説明する
- 15)カンファレンスでは積極的に意見を述べる
- 16)1年時研修医は当科で経験した症例について症例検討会での症例提示とそれを題材にした発表(15分程度、学会形式で、パワーポイントを使用)を行う
- 17)最後に、部長または指導医と研修内容の評価が必ず行われ、それをもって糖尿病代謝内分泌内科の臨床研修の修了が確認される

手術

無し

カンファレンス

- 1)月曜日の症例検討会では1週間以内に入院し受け持ちとなった患者の病状説明、今後の治療方針や経過についての発表を行い、議論する
- 2)火曜日のカンファレンスは内分泌疾患で外来受診した患者または入院中の患者について、主治医より病状説明ならびに検査結果、経過報告を行い、議論する
- 3)水曜日の高血圧カンファレンスでは当科と高血圧内科の双方よりお互いに知りたいこと、知っておいてほしいことを講義形式でカンファレンスを行うが、研修医には講義者が質問しながら、知識の整理をしてもらう
- 4)木曜日の膠原病カンファレンスでは当科と膠原病内科の双方よりお互いに知りたいこと、知っておいてほしいことを講義形式でカンファレンスを行うが、研修医には講義者が質問しながら、知識の整理をしてもらう
- 5)金曜日の教育入院患者カンファレンスでは1週間以内に入院し受け持ちとなった教育患者の病状説明、今後の治療方針や経過について、コメディカルを交えて議論する

その他 緊急時対応・学術活動等

- 1)当科にちなんだ緊急入院の必要がある患者について、研修医の経験になると判断した場合は緊急の呼び出しを行い、主治医とともに診療を行う
- 2)担当患者について学術的に興味をひく症例があれば積極的に症例報告などの学会発表(日本糖尿病学会地方会、日本内科学会地方会など)を行う

経験可能な症候(経験すべき症候29症例中7症候)		
1	ショック	○
2	体重減少・るい瘦	○
3	発疹	
4	黄疸	
5	発熱	
6	ものの忘れ	
7	頭痛	
8	めまい	
9	意識障害・失神	○
10	けいれん発作	
11	視力障害	
12	胸痛	
13	心停止	
14	呼吸困難	
15	吐血・喀血	
16	下血・血便	
17	嘔気・嘔吐	○
18	腹痛	○
19	便通異常(下痢・便秘)	○
20	熱傷・外傷	
21	腰・背部痛	
22	関節痛	
23	運動麻痺・筋力低下	○
24	排尿障害(尿失禁・排尿困難)	
25	興奮・せん妄	
26	抑うつ	
27	成長・発達障害	
28	妊娠・出産	
29	終末期の症候	
経験可能な疾病・病態(経験すべき疾病・病態26疾病・病態中5疾病・病態)		
1	脳血管障害	
2	認知症	
3	急性冠症候群	
4	心不全	
5	大動脈瘤	
6	高血圧	○
7	肺癌	
8	肺炎	○
9	急性上気道炎	○
10	気管支喘息	
11	慢性閉塞性肺疾患(COPD)	
12	急性胃腸炎	
13	胃癌	
14	消化性潰瘍	
15	肝炎・肝硬変	
16	胆石症	
17	大腸癌	
18	腎盂腎炎	
19	尿路結石	
20	腎不全	
21	高エネルギー外傷・骨折	
22	糖尿病	○
23	脂質異常症	○
24	うつ病	
25	統合失調症	
26	依存症(ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博)	

経験可能な臨床手技	研修医1年次			研修医2年次		
	単独可能	単独不可		単独可能	単独不可	
		事前確認	指導医立会		事前確認	指導医立会
体位変換						
移送	○			○		
皮膚消毒		○		○		
外用薬の貼布・塗布		○		○		
気道内吸引・ネブライザー				○		
静脈採血	○			○		
胃管の挿入と抜去		○			○	
尿道カテーテルの挿入と抜去		○			○	
注射(皮内、皮下、筋肉、静脈内)		○		○		
中心静脈カテーテルの挿入)			○			○
動脈血採血・動脈血)	○			○		
腰椎穿刺						
ドレーンの挿入・抜去						
全身麻酔・局所麻酔・輸血						
眼球に直接触れる治療						
①気道確保	○			○		
②人口呼吸(バッグ・バルブ・マスクによる徒手換気含)	○			○		
③胸骨圧迫	○			○		
④圧迫止血法	○			○		
⑤包帯法						
⑥採血法(静脈血、動脈血)	○			○		
⑦注射法(皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保)		○		○		
⑧腰痛穿刺						
⑨穿刺法(胸腔、腹腔)						
⑩導尿法		○			○	
⑪ドレーン・チューブ類の管理						
⑫胃管の挿入と管理			○		○	
⑬局所麻酔法		○		○		
⑭創部消毒とガーゼ交換						
⑮簡単な切開・排膿						
⑯皮膚縫合						
⑰軽度の外傷・熱傷の処置						
⑱気管挿管						
⑲除細動等						
血液型判定・交差適合試験						
動脈血ガス分析(動脈採血を含む)	○			○		
心電図の記録	○			○		
超音波検査						
評価(Ev)						

研修医評価票を用いて、下記のとおり評価する。

A. 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)について、到達目標における医師としての基本的価値観4項目を評価する。

B. 資質・能力について、研修修了時に習得すべき包括的な資質・能力9項目について評価する。

C. 基本的診療業務について、研修修了時に身に付けておくべき4つの診療場面(一般外来診療、病棟診療、初期救急対応、地域医療)における診療能力について評価する。